

横須賀ごみ処理施設「エコミル」見学 研修記

(令和5年11月15日)

一般財団法人 電力中央研究所
横須賀運営センター 大友直子

コロナ禍の影響で中々訪問できなかった横須賀ごみ処理施設「エコミル」の見学が遂に実現し、ワクワク感を胸に、参加者13名で見学・研修を行いました

午前中の平作川の調査に引き続き、長坂にある横須賀ごみ処理施設「エコミル」を訪れました。しょうぶ園から車で約5分、エコミルトンネルを抜けると、大きな空が現れ、建物が見えてきます。広い駐車場も含めて施設全体はとても大きくて迫力があります。



《 迫力満点のエコミルを見上げる！ 》

「横須賀市と三浦市の広域をカバー」

広域処理センター所長、係長が出迎えて下さり、エコミルの施設概要についてご紹介いただきました。エコミルは、横須賀市と三浦市とのごみの広域処理化に伴い建設された施設であり、建設にあたっては周辺地域に与える影響等について協議され、排出ガスは厳しい自主基準値を定めて運用しているとのこと、また焼却による熱エネルギーを利用して発電をされているとのことでした。



《 焼却による熱エネルギーをムダにしないで発電 》

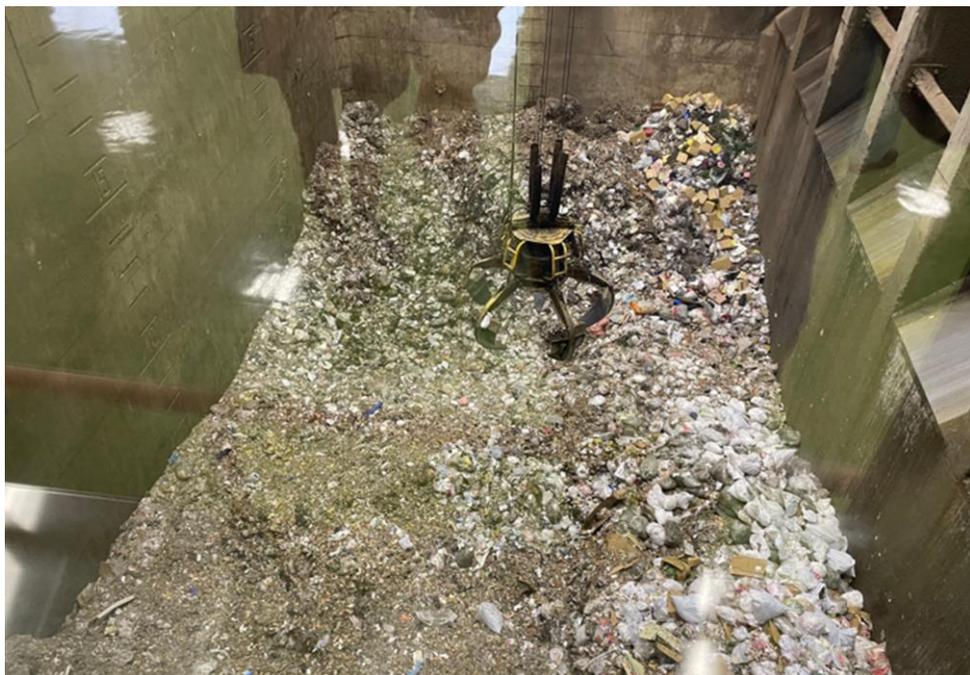
「最大 17,000 軒分の電気を発電」

次に施設見学をしました。収集車が入るプラットホームの入口は、臭気が外に漏れない対策としてエアカーテンを設置しているそうです。ごみピット（燃せるごみ約 5 日分ストック可能！）では巨大クレーンがごみをかき混ぜて性状を均一化にし、燃焼炉で高温焼却されます。その熱エネルギーによりボイラで蒸気を発生させ、蒸気タービン発電機で最大 6600kW 発電ができるとのこと（家庭で使う電気の約 17,000 軒分！）。

焼却に伴い発生する排ガスは除害装置にて有害な物質を取り除き、その濃度はエコミル入口の表示盤でリアルタイムにみられるようになっていました。施設はとてもきれいに維持されており、臭気や排ガスの環境対策、安定燃焼についても工夫がされていることがよくわかりました。



《 約5日分貯めることができるゴミピット 》



《 大きなクレーンの手でわしづかみ 》



《 きれいに整備された施設の内部 》

「ごみ減量の気持を再認識」

この大きな施設を、日々環境に配慮しながら安全に運転し、維持管理をされていることは、職員のみなさまのご尽力があつてのことと思います。

施設を拝見して、ごみを排出する私たちは、ごみ分別はもちろん、食品ロスを減らすなど、ごみの減量の工夫を意識しながら日々暮らすことが大切だと再認識できる貴重な機会となりました。ありがとうございました。